

大学保健体育教員養成課程の創作ダンスの授業における学習者の認知[†]

—「課題学習」から受講生は何を学ぶのか—

松本 奈緒*

秋田大学教育文化学部

本研究は、大学の保健体育教員養成課程における創作ダンスの授業に対する習者の認知をふきだし法による自由記述の分析によって明らかにしたものである。対象者は大学生であり、保健体育教員免許取得希望者11名であった。本研究により、以下の点が明らかとなった。学習者は各時間に学習したテーマや課題を明確に認知した。学習者が創作ダンスの单元の中で楽しい、面白いと肯定的に捉えたのは、創作ダンスのダンスそのもの、色々動けること、表現すること、自由に考えられること、何を表現しているか分かることであった。一方で難しい点として捉えたのは、いくつかの課題の実施（対比の動き、集まるとび散る）、イメージすること、テーマを伝えること、大人数の動きの考慮、大げさやデフォルメ、感情表現であった。また、創作ダンスにおける鑑賞については、学習者は他の班の発表を鑑賞することにより、テーマの表現や各グループの表現の違いや構成の違いに気づくことができた。学習者は单元の学習が進むにつれて、前半ではどのようにテーマを表現するのか、様々な動きの工夫へ学習者の学習が焦点づけられていたが、後半では表現方法の多様性や効果的な指導へとより高次の焦点へと学習が移行した。

キーワード：創作ダンス、学習者の認知、課題学習、保健体育教員養成課程

1. 諸言

ダンスの領域は体育を構成する一領域として位置づけられており、体育の全領域をまんべんなく指導する能力を求められる、大学の中学校、高等学校の保健体育教諭の教員養成課程において取り上げられるべき領域である。ダンスの領域の指導における教師側の指導者のダンスの経験の不足や実技の能力不足、ダンスに関する知識不足がダンス指導の実施を妨げているという研究報告がある（中村恭子・浦井, 2005；松本・寺田, 2013）ことから、保健体育教諭免許取得志望学生が大学においてダンス領域に関する科目を履修する意義は大きいことが分かるであろう。

ダンス領域は文部科学省の学習指導要領によると、「感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流」を行う活動であり、その中でも創作ダンスは「多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にして踊ること」と定義づけられている（文部科学省, 2008）。創作ダンスはテーマに沿って学習者が題材に沿った動きの選択や創作、構成、多様化を図る、主体的な創造活動である。しかし、その学習者が独自に動きをつくるオープン・エンドの方法から、経験の浅い学生や指導者にとって学習内容や指導方法が掴み難いと感じさせる領域でもある。これまで、様々な文献によってその教材や指導方法等について述べられてきた。しかし、学習者の活動がその教材や指導方法によってどのように展開されるのかを含めて詳細に記述された文献は少なく、学習者の視点や活動も含めてよ

2017年1月10日受理

[†]Learner's conception of creative dance units in University PETE curriculum: What students learn through creative dance 'task learning'

*Naho MATSUMOTO, Faculty of Education and Human Studies, Akita University

り詳細な資料が提出される必要があるといえよう。また、構成主義において、学習は学習者がすでに持った既存の知識の上に構築され、個人によってその様態は大きく異なることが示されている (Rovegno and Dolly, 2006; Solomon, 2006)。従って、特定の学習において学習者がどのように学習内容を獲得したのか、学習者の認知を通して確かめることが重要であるといえ、ダンス領域についても学習者の認知を通して何を学習したのか確かめることは意義があるといえるだろう。

先行研究によると、創作ダンスの認知に関していくつかの研究が行われている。佐藤 (1996) は大学生を対象とし、創作ダンスの受講による創造性の変化について調査を行い、統制群よりも実験群の方が創造性検査の総合得点が上昇した被験者が多かったことを明らかにした。中村恭子・浦井 (2006) は高校生を対象とし、受講者の感じる楽しさについて自由記述での回答をKJ法で分類し、創作ダンスは創作過程、協力・交流、発表・鑑賞の項目においてリズムダンスよりも楽しいと受講者が受けとったことを明らかにした。宮本 (2005) は中学生を対象とし、創作ダンス受講生が授業の中でどんな動きをよいと考えるかについて調査し、体を大きく使う、テーマによく合っておりきって踊る、空間を大きく工夫して使う、変化、連続の点で動きを評価することを明らかとした。これらの研究結果から一定の成果が明らかとなったものの、創作ダンスの活動の中で学習者が何を認知し学習したのかについては明らかになっておらず、さらなる研究が必要であるといえよう。

そこで本研究では、創作ダンスの授業における学習者の認知を明らかにすることを目的とする。具体的にはリサーチクエストとして、授業全体を通して創作ダンスの単位の中で学習者は何を認知したのかを明らかにする。

2. 研究方法

2-1. 研究の手続き、研究対象者、分析方法

本研究では質問調査紙法を用い、ふきだし法によって学習者の自由記述を採取し分析の対象とする。ふきだし法については、元来数学教育の分野において学習者の思考プロセスを知るために用いられた方法 (亀岡, 1992, 1996, 2012; 吉野他, 2003) であるが、学習者の認知や概念形成を知るために

松本が改良し体育分野に適用した (松本, 2010, 2015, 2016) ものである。この研究は質的研究の手法を踏襲するものであるため、学習者自身の視点を尊重し自由回答させる。分析方法としては、学習者がふきだし法に回答した内容を舞踊教育を専門とする本研究1名がカテゴリー化し分類した。対象者は大学の中学校・高等学校1種免許状取得のための選択科目である「スポーツ実習Ⅳ (ダンス)」を履修した大学生であり、全11名 (男子7名, 女子4名) であった。また、対象者は1名を除き、保健体育専攻生であった。データ採取については、授業において、創作ダンスを実施した時間 (全15時間中6時間) の毎時間終了後に記入を依頼した。調査紙は中央に踊っている生徒の写真、その周りにふきだしが複数個記入され、「今日のダンスを振り返り気づいたこと、学んだことをなるべく多く書きましょう。」と文章で指示を記したものであった (資料1参照)。分析方法は質的研究の方法にのっとり、ふきだし法にみられる記述を内容毎に分類しラベルをつけ因子とした。また共通項のある因子はまとめ、上位の傘概念でラベルをつけた。なお、記述内容が長い場合は意味毎に区切り、複数のカテゴリーへと分けて分類した。分析者はダンスを専門とする大学の研究者1名であった。

2-2. 単元計画

本授業の創作ダンスの単元は1時間あたり90分の6時間単元で構成した (表1参照)。「スポーツ実習Ⅳ (ダンス)」は全15回でフォークダンス、リズムダンス、創作ダンスをその内容として教えるが、フォークダンスとリズムダンスを終了した残り6時間を創作ダンスの時間として充当し、単元として本研究の研究対象とした。単元は1時間完結の課題学習を実施し、1時間目は「走る-止まる」、2時間目は「集まる-とび散る」、3時間目は「見立ての世界」、4時間目は「走る-ねじる-見る」、5時間目は「日常の動きをダンスに」、6時間目は「喜怒哀楽」の課題を作品のテーマとして扱った。1時間の構成としては、導入活動として、ストレッチ、ローリングダウン-ローリングアップ、スウィングの動き、ダンスウォーク、スキップやホップ、様々なジャンプ、回転等のダンスの基本の動き、社交ダンスのジルバを行った。展開活動としては課題学習またはエチュードと課題学習の組み合わせを行い、最後に課

資料1 ふきだし法調査紙

12月2日

学籍番号 () 氏名 ()

1. 今日のダンスの授業を振り返り気づいたこと、学んだことをなるべく多く書きましょう。
(書ききれなかった場合はふきだしを増やして書き込みましょう)

本番になると緊張した。

これがあると3とふゆふゆしているところのX/11/11。

1/2のステップ構成はビビッてるのは難しいが楽しい。



そのなかの1/2.アで合点異なるマイクン構成で記す。

表1 単元計画

1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目
[導入] ・ストレッチ ・ダンスの基本の動き ・社交ダンス—ジュールバー [展開] ・課題学習「走る—止まる」 ・作品発表 [まとめ] ・ふきだし法記入	[導入] ・ストレッチ ・ダンスの基本の動き ・社交ダンス—ジュールバー [展開] ・エチュード1「対比の動き」 ・課題学習「集まる—とび散る」 作品発表 [まとめ] ・ふきだし法記入	[導入] ・ストレッチ ・ダンスの基本の動き ・社交ダンス—ジュールバー [展開] ・エチュード2「しんぶんし」 ・課題学習「見立ての世界」 ・作品発表 [まとめ] ・ふきだし法記入	[導入] ・ストレッチ ・ダンスの基本の動き ・社交ダンス—ジュールバー [展開] ・エチュード3「身体の部位を意識した動き」 ・課題学習「走る—ねじる—見る」 ・作品発表 [まとめ] ・ふきだし法記入	[導入] ・ストレッチ ・ダンスの基本の動き ・社交ダンス—ジュールバー [展開] ・課題学習「日常の動きをダンスに」 (デフォルメを意識、動きの拡大カードの使用) ・作品発表 [まとめ] ・ふきだし法記入	[導入] ・ストレッチ ・ダンスの基本の動き ・社交ダンス—ジュールバー [展開] ・課題学習「喜怒哀楽」 ・作品発表 [まとめ] ・ふきだし法記入

表2 ふきだし法記述内容分類カテゴリ一覧

(N=263)

カテゴリ (数)	記述内容
テーマ・イメージ (n=37)	走る止まる/走る止まるねじる高く低く/動物園をテーマにしました/ゴリラ→熊→わに→象/交通手段シリーズでした/走る止まるの発表では徒歩-自転車-車-電車という交通手段のイメージでポーズを決めた/動物というテーマで踊った/あつまるはじけるだけでも色んなイメージがあった/ボウリングの動きをやった/テーマ2 ポップコーン/風や波など何かをイメージしてまねる/布あそびグループ発表神の儀式をイメージしました/2人組シラー対極/グループで(布)神(周りは)火を表現/走るねじる見る/走る見るいろいろなものを見ることをイメージしてうまくポーズがとれました/日常を表現する/日常の動きをダンスに/喜怒哀楽 ラジコンテーマで等
テーマを表現 (n=4)	テニスというテーマを表現できるようにした/テーマが伝わるようにポーズを考えた/テーマに合わせて動きを作るのも楽しくできた/ポップコーンの特徴を考えてやるようにしたい
課題 (n=25)	走る止まる ポーズ高さを変えてひねり/走る止まる3つ好きなポーズ高さを変えるねじって/ミラーと対称 2人組/反対の動きをする/集まってとびちる×3回/向かいあわせ2人組 鏡 反対/逆(大小のポーズの絵)/(相手の腕を)かわす/対極の動き/何かにみたてる/見る動きねじる動き/手首→うで→くび→むね→せなか→だら一/デフォルメ=おおげさな表現/デフォルメ=おおげさに強調等
ストーリー (n=8)	ストーリーを作り行うことでおもしろみがますと思った/連想してストーリーを考える/風あげなどのストーリー性のある動き/ボウリング スペアとるストーリー/風で物語 ころんだりどこか行ったり/ダンスの中に何かストーリーを作り道具を使って様々な動きをする/朝起きてから家を出るまで/創作ダンス「喜怒哀楽」でテーマ「ラジコン」事故にあってから仲直りするストーリー
動きの変化 (n=1)	ねじったり高低差をつけるだけで色々変わる
動きの工夫 (n=40)	スクリーンショットになるように一連の動きをつくった/一人一人の動きがはっきり異なるように意識した/ピタッと止まることを意識した/細かい部分まで動きを工夫したいと思った/もっと動きを大きくしたいと思った/走る止まるのメリハリをしっかりとする/ねじったり高い低いを意識したり大きく動く/様々なはじけ方を取り入れる/鏡反対/工夫すればいろんな動きがある/見るでも大きなアクションで/一つ一つの動きの間でも動きを入れて/視点を一点に定めた/どこかを強調するなどの工夫/動きのテーマはたくさんでた/歯磨きなど日常の細かな動きも大きくリズムカルにする/カードを使って部位を強調/感情強調/リズムよく動く等
工夫の重要性 (n=1)	工夫の仕方で良いものができると思った
ダイナミック (n=7)	ダイナミックに動きをつくることでより全員が楽しくできたと思う/ダイナミックに動く/走る→ねじる 大きく!!/体全体を大きく使った/動きを大きくやることでダイナミックになった/大きくダイナミックに行う/大きくうごく
高さ (n=1)	高く低く中くらい
テーマにあった動きの工夫 (n=13)	自転車 腰を低くおとす/車 地面に腰を下ろす大きく動くハンドルをにぎる/電車 吊革につかまるイメージ/一つ目はゴリラ大きく見せる/二つ目は熊 迫力を出す/三つ目はワニ低い姿勢で/四つ目は象手の角度を工夫して/自転車と車の動きの形が似ているので車の時は座るといふ高さの違いを出しました/ポップコーン はじける感じが大きくはげしくてよかったです/ポップコーンはストーリーがあってさまざまはじけ方があるのがよかった/布を使って動きを考える-1ヶ所結び目を作って投げるといふのを思いつきました/喜怒哀楽は大きく分かるように表現する
多様性 (n=1)	様々なダンスができた
多様な表現 (n=1)	色々なものをつかって表現ができるなど布/新聞紙をやった
発想の元 (n=1)	〇〇君のテニスをやっている姿から案を得てつくった
動きの理解と動きづくり (n=2)	一人スポーツの動きを理解しているとうまく動きをつくることができる/ダンスの中に日常の動きを入れるのを日常でもダンスに通じる動きがあるのだと思った
オリジナリティー (n=2)	簡単な動きの中でも工夫して自分らしく/その分動きに力をそそげるのでたくさんのユニークなものが出てくるのだと思う
それぞれの良さをいかす (n=1)	個人と集団のそれぞれのよさをダンスでいかす

細部までこだわり (n=1)	細かい動きの部分までこだわることができた
効果的な技法 (n=5)	同じことをくりかえして協調/動きをそろえることでかなりキレイに見えた/どこを見ているのかを分かるような見方をする/全身を使ってねじることが大事/走る→目線わかりやすく
踊り方 (n=2)	流れを大事にして踊る/大小強弱をつけて分かりやすく踊る
動きのコツ (n=1)	アップの回るやつ→背筋を意識足を大きくけりあげる
一連の動き (n=1)	一連の動きを考えて動く
最後が大事 (n=1)	最後が決まると格好よく見える
他の人の真似 (n=6)	先頭の人まねをする/人の動きに合わせるやつ/相手をまねるのがおもしろい/相手のマネをするのが楽しくできた/相手の動きのまねをする/リーダーにあわせてうごく
他者との関係 (n=1)	2人の距離感を大切に
協力 (n=1)	最後のダンスでは3人で協力して良い動きができたと思う
動きの要素 (n=4)	あるき/徒歩/他の人を真似して/ペアで片方がやった動きのマネをする
運動量の確保 (n=1)	運動量を確保できてよかったと思う
様々な表現方法 (n=2)	色々な表現方法があることが分かった/ダンスには色々な表現方法があり見方も様々で楽しかった
楽しい (n=16)	布を使っての表現はやってみて楽しかった/久しぶりのダンスで楽しかった/ねじる見るの動きは楽しかった/みるに関してはアクションをつけることでより楽しさが増す/ねじるみるにストーリーをつけるのも楽しい活動だと思った/動きが多くて楽しくやることができた/体全体を使って表現するのは楽しいし色々動けるので良いと思った/何を表現しているかわかると楽しい/日常の動きをとり入れるだけで楽しくできた/創作ダンスは自由に考えることができ楽しい活動であった/全体を通して楽しかったです/全員で楽しくできてよかった/楽しくやるのが大切である/ダンスは苦手意識があったけど創作やデフォルメなどたくさん楽しいダンスがあることを知ってこれからもダンスをしてみたいと思うようになりました/全体を通して自己表現することはなかなか難しかったですがとても楽しかったです/ストーリーを考えての創作ダンスも楽しかったです
面白い点 (n=6)	ストーリーが動きだけで表現できると楽しい/道具を使うとおもしろい/つなぎの動きもおもしろかった/布を投げる動きが面白かった/流れを意識してやることで面白いものになった/喜怒哀楽は単純だけど色々な表現があって面白い
簡単な点 (n=1)	ミラーは簡単
難しい点 (n=21)	対比の動きがむずかしかった/創作ダンスは音楽も声も出さない状況でテーマを伝えるのは難しい/対比の動きは難しい/みんなが見てわかる表現をするのが難しいと感じた/集まるはじけるの動きをつかたりしてストーリー性を持たせた動きを考えるのは難しかった/あつまるはじける なかなかイメージが難しかったです/対極はリーダーの方も難しい/動きを考えているとみんなで決めたことを忘れてしまう時があった/大人数でやる時の工夫をするのが難しかった/グループで視線を一方に保ちつつねじるのは意外とたいへん/日常の動きを気にしすぎてデフォルメすることを忘れてしまう時がある/ダンスっぽくするのは少し難しかった/どのように大げさにするかは自由なので意外と難しかった/おおげさな動きは意外と難しかった/喜び低く/ひざを強調の動きを考えるのは難しかったです/自由な分ストーリーなどに意識がいき動きのデフォルメができなくなる場合があると思った/「楽」がどう表現すればいいのかかわからず難しかった/感情を実際に動きの中に入れるのは難しかった/感情を動きで表現するむずかしさが分かった/テーマ 喜怒哀楽 自由度が高くて難しかったです
積極性 (n=1)	積極的にがんばった
アイデアが浮かぶ (n=2)	今まで自分からアイデアを出すことは少なかったですが今日はバンバン浮かんできました/様々な動きを考えられるようになった気がします
説明 (n=1)	その都度何を大事にするかを説明する必要がある
用具の効果・使い方 (n=6)	布の大きさが様々あるのもより発想がふくらんで楽しめる/もっと布のいい使い方があったと思う/布を使ってなにかに見えるように動かしたりまったりして使う/タオル(布)を使った動きをしていた/色々な大きさの布を用意しておくと思いが広がると思いました/布を使うと色々な動きを考えられるしストーリーを考えるときにやりやすいと思えました/幼児は布をかぶったりひらひらさせるのが好きなので小学校以外でも使えると思えました

指導過程 (n=4)	はじめに布を使って自由に遊ぶ時間をとることでそのあとの活動が活発になる/布あそび→2人で発表→グループ(6人)で発表/始め→なか→終わりの流れでダンスしていた/最初に個人で色々な動きをやってからグループになると作りやすいと思った
発表 (n=1)	班で発表した
鑑賞・他の作品の評価 (n=14)	4年生さんの1人1人少しずつ動きが違って全員で1つのポーズのような表現が良かったです/他の班の人の発表もおもしろかった/ボーリングが上手く表現されていた/他のグループのポップコーンも面白かった/最後の相手のグループの発表は儀式を連想させました/グループでの発表が楽しい/他の人の動きを見ることも参考になる/走るねじる見るの発表ではうまく見るとねじると組み合わせていたと思います/〇〇のグループは個性があって視線がそろっていて良かったです/他のグループの踊りもおもしろかった/相手のグループはダイナミックでまさにデフォルメできていると感じました/グループ3 大きい動き小さい動き 動きの変化があっておもしろかったです/グループ1 恋愛でうまく 表現されていたと思います(うまくまとめて)分かりやすかったです/班によって考えるストーリーが全然違って見えておもしろかったです
その他 (n=1)	創作ダンス

表3 時間毎の抽出カテゴリー一覧

1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目
テーマ・イメージ テーマを表現 課題 動きの工夫 テーマにあった動きの変化 発想の元 動きの理解と動きづくり オリジナリティー 他の人の真似 動きの要素 鑑賞・他の作品の評価	テーマ・イメージ テーマを表現 課題 ストーリー 動きの工夫 ダイナミック テーマにあった動きの工夫 オリジナリティー 一連の動き 他の人の真似 面白い点 簡単な点 難しい点 鑑賞・他の作品の評価 その他	テーマ・イメージ 課題 ストーリー 動きの工夫 テーマにあった動きの工夫 多様な表現 それぞれの良さをいかす 他の人の真似 楽しい 面白い点 難しい点 用具の効果・使い方 指導過程 鑑賞・他の作品の評価	テーマ・イメージ 課題 動きの工夫 ダイナミック 効果的な技法 動きのコツ 運動量の確保 楽しい 難しい点 積極性 指導過程 鑑賞・他の作品の評価	テーマ・イメージ 課題 ストーリー 動きの工夫 ダイナミック 動きの理解と動きづくり 楽しい 面白い点 難しい点 発表 鑑賞・他の作品の評価	テーマ・イメージ ストーリー 工夫の重要性 テーマにあった動きの工夫 多様性 踊り方 最後が大事 様々な表現方法 楽しい 面白い点 難しい点 アイデアが浮かぶ 説明 鑑賞・他の作品の評価

資料2 創作ダンスにおける学習者の認知まとめ

<p>創作ダンスの学習を通じて学習者(受講した大学生)は・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題やテーマを意識できた ・テーマに合った動きの工夫を含めた様々な動きの工夫を意識した ・様々な表現や自分なりの動きへの気づきがあった ・作品を深めるための効果的な技能や細部までのこだわりを意識できた ・表現する上で用具の効果や使い方を意識できた ・ダンス自体、色々動けること、表現すること、自由に考えられること、何を表現していることが分かることが楽しいと認識した ・いくつかの課題の実施(対比の動き、集まるとび散る)、イメージすること、テーマを伝えること、大人数の動きの考慮、大きさやデフォルメ、感情表現が難しいと認識した ・発表や鑑賞時に表現の良い点や各グループの表現の違いや構成の違いに気づくことができた

題学習のグループ活動について作品発表を行った。エチュードでは、動きの表現を効果的に行うための習作的な課題を行い、課題学習ではテーマに合わせてグループであるいはリーダーを決めて動くことから、イメージを持った動きの創作に移行し、ダンス創作をグループで行った。中間発表または最後の発表では、観ている受講者を指名し意見を発表させることで、ダンスを鑑賞・評価する活動も行った。まとめとして、授業の活動を振り返りながら、ふきだし法の調査用紙に記入を行った。

3. 結果

結果として全263の記述が採取され、テーマ・イメージ、テーマを表現、課題、ストーリー、動きの変化、動きの工夫、工夫の重要性、ダイナミック、高さ、テーマにあった動きの工夫、多様性、多様な表現、発想の元、動きの理解と動きづくり、オリジナリティー、それぞれの良さをいかす、細部までこだわり、効果的な技法、踊り方、動きのコツ、一連の動き、最後が大事、他の人の真似、他者との関係、協力、動きの要素、運動量の確保、様々な表現方法、楽しい、面白い点、簡単な点、難しい点、積極性、アイデアが浮かぶ、説明、用具の効果・使い方、指導過程、発表、鑑賞・他の作品の評価、その他の全40の категорияが抽出できた(表2参照)。

全体の創作ダンスの活動を通して、学習者の認識として、以下のことが明らかとなった。まず、学習者はどんなテーマや課題を学習したのかを明確に認識できたことが明らかとなった。次に、明らかとなったのは様々な動きの工夫であった。これに関して学習者は動きの差異、大きさ、きちんと止まる、メリハリ、リズム、動きと動きの間等の動きの工夫を意識できたことが分かった。さらに、テーマにあった動きの工夫を特に意識できたことが明らかとなった。それに加え、表現の多様性や題材の理解により動きづくりがしやすくなる等の表現に関連して動きを意識できたことも明らかとなった。さらに、細部までこだわるとこと、そろえることや繰り返し等の効果的な技能、作品の最後が大事等、作品を深めるための効果的な技法についても意識できたことが明らかとなった。次に、学習者は布の様々な使い方、布を使うことによりストーリーが広げやすくなる、布の大きさや種類により発想が広がる等の用具の効果・使い方についても意識できた。

次に楽しい・面白い点として、ダンスを行うこと自体、色々動けること、表現すること、自由に考えられること、何を表現しているか分かること等が楽しく面白いと学習者は認識したことが明らかとなった。一方で難しい点として、学習者はいくつかの課題の実施(対比の動き、集まるとび散る)、イメージすること、テーマを伝えること、大人数の動きの考慮、大げさやデフォルメ、感情表現が難しいと認識したことが明らかとなった。

次に、学習者は発表と鑑賞の中で、ボーリングが上手く表現されていた、相手のグループはダイナミックでまさにデフォルメできていると感じた、班によって考えるストーリーが全然違って見ていておもしろかった等、テーマの表現や各グループの表現の違いや構成の違いに気づくことができたことが明らかとなった。

毎時間の違いについては、各時間の抽出カテゴリー一覧(表3参照)をみると、テーマ・イメージ、課題、ストーリーはほぼ毎時間みられ、単元の前半は動きの工夫、テーマを表現、オリジナリティーが、後半は効果的な技法、様々な表現方法、多様性、指導過程が抽出できたことが明らかとなった。また、用具の効果・使い方は「見立ての世界」で布を使用した際にのみ抽出できたことが明らかとなった(資料2参照)。

4. 考察

創作ダンスにおいて、課題やテーマとして何を設定するのか、またそこからどのように動きを展開し作品にまとめていくのかといった問題は、授業における中核となる事項である(中村なおみ, 1991; 全国ダンス・表現運動授業研究会, 2011)。特に課題学習は、1時間完結でテーマや課題に沿って踊る・つくる・観るの活動を行う(中村なおみ, 1991; 全国ダンス・表現運動授業研究会, 2011)ことを特徴とするが、本研究の結果から、学習者は各時間のテーマや課題を明確に意識できていたことが明らかとなった。これは、指導を通して課題学習のテーマや課題が学習者に浸透し、毎時間何を行ったかが伝わったと推察でき、また課題学習の構造がどんな課題やテーマを学ぶのか明確に提示できるものであったことが推察できる。

学習者が創作ダンスの単元の中で楽しい、面白いと肯定的に捉えたのは、創作ダンスのダンスそのも

の、色々動けること、表現すること、自由に考えられること、何を表現しているか分かることであった。ダンスの楽しさの因子に関する先行研究では、大学生を対象とした研究では畑野（1987）は表現をあげ、中村・浦井（2006）の高校生を対象とした調査では踊る楽しさ、表現の自由、創意工夫を挙げた。本研究では先行研究の因子に加え、自由な思考と表現を理解する因子が新たに明らかとなった。

一方で、創作ダンスにおいて難しいと捉えられた点に関し、本研究では、いくつかの課題の実施（対比の動き、集まるとび散る）、イメージすること、テーマを伝えること、大人数の動きの考慮、大きさやデフォルメ、感情表現が難しいと学習者が認識したことが明らかとなった。このことから、学習者は課題を動きにすること、課題やテーマから発想豊かにイメージすること、創造的な活動を難しいと受け取ったことが明らかになった。また、テーマを伝えるといった表現の伝達、表現を多様なものとし深めるための要素を考慮した活動について難しいと受け取ったことが明らかとなった。生みの苦しみという言葉があるが、創作ダンスの創造的活動の際に学習者は多少の困難を感じており、また、より深い表現のための課題に沿った動きの模索の際に難しさを感じるものが明らかとなった。

創作ダンスにおける鑑賞については、ダンスの学習の柱となる重要な要素である（島内ら、1996；高橋、1995）。本研究においては、他の班の発表を鑑賞することにより、テーマの表現や各グループの表現の違いや構成の違いに気づくことができたが、これは山田が「ダンスの特質に触れることによってダンス観は確立・拡大されていく」（山田、1992）と述べた現象にあたり、他の班の発表を鑑賞し発想や動きの違いを味わうことでダンスの特性に触れ、受講者のダンス観が拡大したのではないかと推察できる。これは、高橋の研究（1995）において、創作ダンス作品鑑賞前に分からない、興味がないと答えた大学生が面白かった、考えが変わった、ダンスが分かったとその回答に変化があったことが報告されている。本研究においても創作ダンスについて、経験の乏しい受講者が他のグループの作品を鑑賞するたびに新しい発見をし、創作への異なったアプローチや表現方法について気づけたことが推察できる。

時間毎にどんな学習の深まりがあるのかについては、単元の前半は動きの工夫、テーマを表現、オリ

ジナリティーが、後半は効果的な技法、様々な表現方法、多様性、指導過程へとそのカテゴリーが変化した。これは、前半ではどのようにテーマを表現するのか、様々な動きの工夫へ学習者の学習が焦点づけられていたが、後半では表現方法の多様性や効果的な指導へとより高次の焦点へと学習が移行したと考えられる。また、受講者は教員候補者として指導方法に着目し、指導過程についても考慮できるようになり、教育法も含めたより広い視野で考えられるようになったことが指摘できる。

5. 結語

本研究は、大学の保健体育教員養成課程における創作ダンスの授業における学習者の認知をふきだし法による自由記述の分析によって明らかにしたものである。本研究の結果、以下のことが明らかとなった。

- (1) 学習者は各時間に学習したテーマや課題を明確に認知した。
- (2) 学習者が創作ダンスの単元の中で楽しい、面白いと肯定的に捉えたのは、創作ダンスのダンスそのもの、色々動けること、表現すること、自由に考えられること、何を表現しているか分かることであった。本研究では先行研究の因子に加え、自由な思考と表現を理解する因子が新たに明らかとなった。
- (3) 学習者が一方で難しい点として捉えたのは、いくつかの課題の実施（対比の動き、集まるとび散る）、イメージすること、テーマを伝えること、大人数の動きの考慮、大きさやデフォルメ、感情表現であった。
- (4) 創作ダンスにおける鑑賞については、学習者は他の班の発表を鑑賞することにより、テーマの表現や各グループの表現の違いや構成の違いに気づくことができた。これは、他の班の発表を鑑賞し発想や動きの違いを味わうことでダンスの特性に触れ、受講者のダンス観が拡大した有意義な活動であったと推察できる。
- (5) 学習者は単元の学習が進むにつれて、前半ではどのようにテーマを表現するのか、様々な動きの工夫へ学習者の学習が焦点づけられていたが、後半では表現方法の多様性や効果的な指導へとより高次の焦点へと学習が移行し

た。また後半においては指導方法に着目し、指導過程についても考慮できるようになった。

本研究では以上のように一定の成果が明らかとなったが、本研究の分析は主研究者1名で行ったものであり、研究の信頼性・妥当性を担保するために、研究者のトライアンギュレーションを行い複数の専門家の視点を踏まえた分析を行った方が望ましい。また、対象者が11名と極めて少数であったことから、より対象者の数を増やして分析の対象とする方が望ましい。以上が本研究の限界といえるであろう。

参考引用文献

- 畑野裕子 (1987) 「ダンスの授業の楽しさ」に関する因子分析の試み. 舞踊学, 10 : 12-13.
- 亀岡正睦 (1992) 「ふきだし法」による子への対応に関する研究 I. 日本数学教育学会誌, 74(4) : 87-93.
- 亀岡正睦 (1996) 「ふきだし法」による指導と評価の一体化に関する研究. 日本数学教育学会誌, 78(10) : 297-302.
- 亀岡正睦・神保勇児 (2012) 算数科におけるメタ認知形成方略としての「ふきだし法」に関する研究 (1). 文教大学臨床心理学研究報告, 5 : 25-35.
- 中村恭子・浦井孝夫 (2005) 中学校における体育の種目選択制に関する研究－ダンス領域を中心とした現状と問題点－. 順天堂大学スポーツ健康科学研究, 9 : 52-56.
- 中村恭子・浦井孝夫 (2006) ダンスの学習内容と楽しさの検討－創作ダンスと現代的なリズムのダンスの比較－. 順天堂大学スポーツ健康科学研究, 10 : 65-70.
- 中村なおみ (1991) 創作ダンスの指導. 舞踊教育研究会編, 舞踊学講義, 大修館書店:東京, pp.198-201.
- 前田曜子 (2008) 映像資料を活用したダンスの授業. 東京学芸大学附属高等学校紀要, 45 : 31-40.
- 松本奈緒 (2012) 秋田の盆踊りの学習における学習者の認知研究－デジタルコンテンツを用いたダンス学習での自己教育力の育成を目指して－. 秋田大学教育実践研究, 34 : 57-70.
- 松本奈緒 (2010) ダンス領域を教える上で、授業のポイントとは何か－中学校でのダンス必修化によせて－. 保健体育ジャーナル, 91 : 1-4, 学研教育みらい:東京.
- 松本奈緒 (2010) デジタルコンテンツを活用した秋田の盆踊りの学習－モーションキャプチャー技術を応用したDVDを用いて－. 秋田大学教育文化学部研究紀要教育科学編, 65 : 57-65.
- 松本奈緒 (2016) 学習資料を工夫したりズムダンスの授業における学習者の認知－動きのカードとキネクトによる動きの提示から－. 秋田大学教育文化学部紀要教育科学編, 71 : 59-69.
- 松本奈緒 (2016) 創作ダンスの熟練教師指導映像に対する学生の認知－大学院「教材開発論」の授業を通して－. 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要, 38 : 59-66.
- 松本奈緒 (2015) 中学校段階の体ほぐしの運動における学習者の概念形成－ふきだし法による自由記述とインタビューの分析を通して－. 体育科教育学研究, 31(2) : 1-15.
- 松本奈緒・寺田 潤 (2013) 男女必修化時代の中学校ダンスの実施の現状と指導者の問題意識－秋田県保健体育教諭の研修レポートを参考として－. 秋田大学教育文化学部研究紀要, 教育科学部門, 68(4) : 25-34.
- 宮本乙女 (2005) 創作ダンス授業における学習者によるパフォーマンス評価の研究. お茶の水女子大学附属中学校紀要, 34 : 65-86.
- 文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領解説保健体育論, pp.118-119.
- Rovegno, D. and Dolly, J. D. (2006) Constructivist perspectives o learning. The handbook of physical education, Kirk, D., Mcdonald, D. and O' Sullivan, M., Sage publishers, pp.242-261.
- 佐藤節子 (1996) 創作ダンス教育における創造性開発について. 埼玉女子短期大学研究紀要, 7 : 75-92.
- Solomon, M. (2006) Learner cognition. The handbook of physical education, Kirk, D., Mcdonald, D. and O' Sullivan, M., Sage publishers, 2006, pp.226-241.
- 島内敏子・北野啓子・石田五月 (1996) 舞踊作品の鑑賞技能の実態的把握. 舞踊學, 19 : 18.
- 高橋るみ子 (1994) 舞踊教育における鑑賞(1): 映像による学習. 宮崎大学教育学部紀要 (芸術・保健体育・家政・技術), 76 : 19-47.
- 高橋るみ子 (1995) VTR「全日本高校・大学ダン

スフェスティバル受賞作品集」の教材的価値. 舞踊學, 17: 64-65.

山田敦子 (1992) 学習の成果をとらえる. 松本千代栄編著, ダンスの教育学 1, p.245

吉野 巖・篠原宋弘・吉野典史・高坂康雅・工藤俊夫 (2003) 数学学習における「吹き出し法」のメタ認知的効果の検討. 北海道教育大学紀要教育科学編, 54(1): 13-23.

全国ダンス・表現授業研究会編 (2011) 明日からトライ! ダンスの授業, 大修館書店: 東京, 159P.

Summary

This study analyzed that university student's conception of creative dance units in University PETE curriculum through balloon method free description analysis. Objects were 11 university students who would like to have physical education teacher license. This study suggest that: In every lesson students recognized clear theme and task they belong to. Students recognized positive,

fun, interested that creative dance itself, variety moving, expression, free thinking, understanding what it expressed. Otherwise, students recognized difficult that some task accomplishment, image something from task or theme, transmission of theme, deformation, feeling expression. About creative dance appreciation, students recognized appropriate theme expression through movement, expression difference, structure difference of dance piece. As lesson progression students conception developed from how express theme and movement invention to variety expressional methods and effective expressional technique.

Key Words : creative dance, students conception, task learning, physical education teacher education

(Received January 10, 2017)